

大磯町照ヶ崎海岸へのコアハウドリの漂着

浜 口 哲 一

Tetuichi HAMAGUCHI : Laysan Albatross *Diomedea immutabilis* Washed Ashore at Terugasaki, Oiso, Kanagawa Prefecture

はじめに

筆者は、1990年7月に平塚市唐ヶ原海岸に漂着したコアハウドリ *Diomedea immutabilis* について報告したことがあるが(浜口, 1994), その後、大磯町の海岸に漂着した同種の標本を観察する機会を得たので、その結果を報告する。なお、この記録は、神奈川県陸域としては4例目になるものである(日本野鳥の会神奈川支部, 1992)。

報告にあたり、発見者の関口圭君とそのご家族、また解剖を手伝って頂いた青木雄司氏にお礼申し上げる。

発見の状況

コアハウドリが発見されたのは、1994年5月5日で、大磯町照ヶ崎海岸の砂浜に漂着していた。発見者は大磯町立大磯小学校の関口圭君であった。死体は関口君とご家族によって平塚市博物館に運ばれ、筆者に託された。

観察と計測

死体はやや腐臭を発し、死後数日の時間が経っていると思われた。下腹部には広範囲に油が付着し羽毛が黒く汚れていた。

体の色彩は、目先、翼上面、翼下面の縁、尾の後半が黒褐色で、その他の部分は白かった。嘴は淡い肉色で下嘴の方がやや濃色で、上下とも先端部が黒ずんでいた。脚も肉色であった。初列風切に左右各1本の換羽中の羽が認められた。

計測値は、翼長504mm、嘴峰117mm、跗蹠88mm、尾長151mmであった。

なお、本個体は剥製にするには不適当な状態であったので、骨格または羽毛標本として平塚市博物館に保存される予定である。

胃内容物の観察

死体を計測、撮影後、解剖を行い、消化管の内容物の観察を行った。胃の部分からは、固形物として相当数の魚の骨、2~3個体分のイカ類の口器が検出された。また、その他に三角形のプラスチック片1個が検出された。このプラスチック片は、1片7~8mm、厚さ1mm程度の三角形であった。

長谷川(1990)によれば、アハウドリの雛の吐きだした胃内容物にしばしばプラスチック類が見つかるという。本報の観察も、こうした異物がアハウドリ類の体内に取り込まれていることの1例となるものである。



図1. コアハウドリの全形。



図2. コホウドリの頭部.

今回の例では、特に消化管に詰まっている状態は見られず、直接の死因であった可能性はないが、その生理的影響が懸念される。

腸の部分の内容物はすべてペースト状で、固形物は検出されなかった。

文 献

浜口哲一, 1994. 平塚海岸へのコホウドリの漂着.

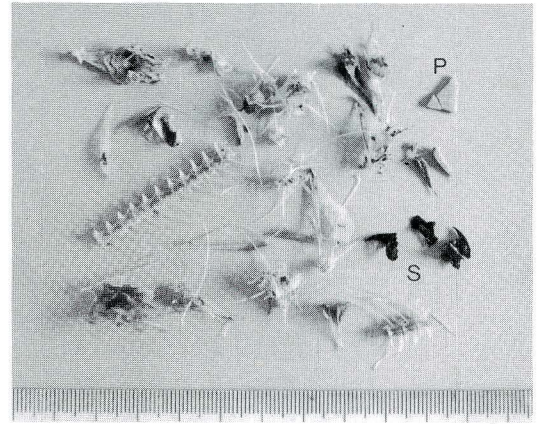


図3. 検出された胃内容物の一部 (S: イカの口器; P: プラスチック片; 他は魚の骨)

BINOS, (1): 69-70. 日本野鳥の会神奈川支部.

長谷川博, 1990. 渡り鳥地球をゆく. 202pp. 岩波ジュニア新書.

日本野鳥の会神奈川支部, 1992. 神奈川の鳥1986-91. 440pp.

(平塚市博物館)